

校長室からこんにちは！

No. 3

5月30日

発行者 中田 禎二

心と身体の貯金

祖国は新緑の眩しい季節を迎えています。学校の緑たちもそれに負けじと見る者に心の安らぎを与えてくれています。また、子どもたちも日々鍛えられながらその学年らしい顔つきになってきました。

先日の授業参観後の校長説明の中で私は「子どもの心と身体に貯金しましょう」とお話ししました。この言葉は、これまでも紹介している私の師匠である退職先輩校長の口癖のひとつでもありました。

この貯金の説明をしますと、利率は常に高く、しかも、その開始時期は早ければ早いほど高利率をつけてくれます。また不思議なことに入金者は名義人である子ども以外の人、とりわけ親が最適で、引き出すのは名義人である子どもとなっているのが特徴です。

しかし、この貯金には「甘やかさない」「躰ける」「待つ」等という入金条件があり、これを守らないと知らぬ間に目減りしてしまうことがあります。

学校教育がその効果をより良く発揮するためには、家庭教育の充実によることは改めて言うまでもありません。だからこの貯金が大切だと、先輩は具体的な話をしながらより効果的な貯金の方法を教えてくれました。例えば、「共稼ぎでしかも母親である先輩は、どんなに仕事があっても子どもが寝るまでずっと寄り添い、仕事の始まりが深夜近くの毎日だった。」「遠くへ子どもと旅行に行く時間もお金もなかったので近くの公園におにぎりをもって出かけ遊んだ。」「食事は少しでも良い食材で手作りの料理に努めたのでエンゲル係数が高かった。」「図工が大好きだった下の息子には大量の画用紙を購入して常に補充し、いつでも絵をかいたりハサミで切ったりができる環境を整えていた。」等です。

そこで、これらを参考に我が家でも試みましたが、はたしてその何%できたことやら…。

先輩は私の母と同年代で、しばしば「あんたは私の息子みたいなもんじゃけえ（息子みたいなものだから）」と言いながら退勤前に抹茶を立てて、「気をつけて帰るんよ」と送り出してくれていました。振り返ってみると、私も先輩から「心と身体に貯金」してもらっていたのかもしれない。

では、ドーハ日本人学校を預かる校長として、子どもや教職員に昨年貯金したのだろうか、したとしたらどんな貯金だったのだろうかを、彼らの行動を見ながら自己を振り返り反省すること頻りです。

新学期、子どもに語った、カタールNo.1の学校を目指そうには「心と体の貯蓄率No.1も入っていること」を忘れることなく、中期経営計画の3分の2年目を進んで行かねばと思っています。

新たな取組みも始めました。どうかご理解とご協力をお願いいたします。

校長写真館



自己最高新記録を目指した今年のスポーツ測定の結果が基準値以上に達した子どもに記録証を渡しました。もちろん、全員に伸びが見られました。

ちょっとお耳を…

本校では毎朝教職員が玄関でバスから降りて来る子どもの登校を迎える。「おはようございます」の声や表情が今日の心と身体のパロメーター。それを担任は見取っている。

そして、もう一つの挨拶がドライバーの笑顔とともに交わされる「Good morning」。

本校のドライバーに限らず、アジアの各地からドーハに働きに来ている人たちがいつも見せる笑顔はいい。それも私の心のオアシスとなっている。